

2006年度 同志社大学大学院
司法研究科法務専攻（法科大学院）専門職学位課程
入学試験 第2次審査

試験問題

法律科目試験
(刑事訴訟法)

[注意]

1. 試験開始の合図があるまで、この表紙を開けてはいけない。
2. 問題紙の本文は、1枚である。試験開始後ただちに欠落や印刷の不鮮明な箇所がないか確認すること。欠落や印刷の不鮮明な箇所がある場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
3. 解答用紙は、3枚1組である。
4. 各解答用紙の右上に受験番号の記入欄がある。組になっている2枚目以降の解答用紙の受験番号欄にも受験番号をペンで正確・明瞭に記入すること。
5. 解答は、黒色のペンまたは鉛筆で記入すること。
6. 試験開始後は、終了まで試験場から退出できない。
7. 試験はすべて監督者の指示によって行う。監督者の指示に従わない場合や不正行為を行ったときは、試験場から退出させる。
8. 試験終了後、問題紙は各自持ち帰ること。

2006年度 同志社大学大学院
司法研究科法務専攻（法科大学院）専門職学位課程
入学試験問題 法律科目試験

(刑事訴訟法)

【問題】

次の問にそれぞれ答えよ。

警察官P、Qらは、被疑者Xが口論の末、Aの腕を折り畳みナイフで突き刺した旨の傷害の被疑事実について、Xが寝泊まりする簡易旅館の304号室を捜索場所、ナイフ等を差押目的物とする捜索差押令状に基づき、捜索に出向いた。

中に人の気配はするものの、簡易旅館304号室は施錠されており、声をかけても誰も出てこないため、P、Qらは、合鍵でドアを開け、その直後、Xに令状を示して捜索を開始した(1)。

Pは、カバンを持って落ち着かない様子で、壁際に立っていたXに対し、カバンを開披するよう何度か求めたが、Xがこれを強く拒んだので、Xの手を払いのけ、カバンの鍵を壊して中を覗いたところ、折り畳みナイフが出てきた。Pは、これを差し押さえた(2)。

304号室には、Xの友人Bが遊びに来ていたが、Bのポケットが膨らんでおり、また不審な挙措で外出しようとしたので、Qは、Bを呼び止めたうえ、Bに何度かポケットの中の物を出すよう求めた。Bが渋ってこれに応じないので、Qは、ポケットの中に手を差し入れ、その中を探ったところ、ポケットから覚せい剤が入ったビニール袋と注射器を発見した(3)。

(1) P、Qらの行為は適法か。

(2) Pの行為は適法か。

(3) Qの行為は適法か。Qは、覚せい剤入りのビニール袋と注射器を押収することができるか。